

EU Indicators

欧州経済指標コメント：1月英国労働統計

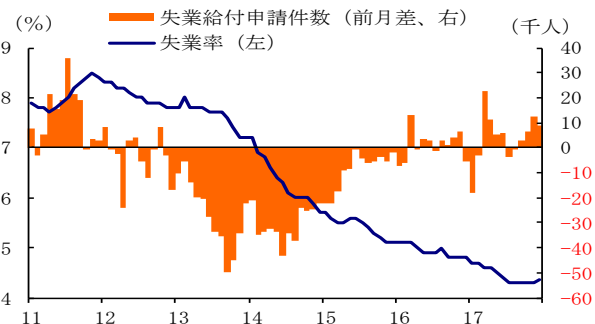
発表日：2018年1月25日(木)

～賃金と物価のゴールデンクロスも近い？～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

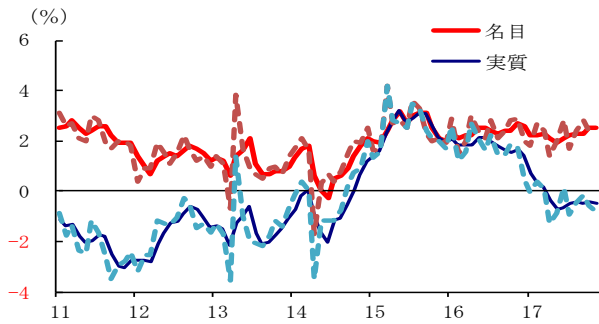
- 24日に発表された英国の失業率（労働力調査）は、昨年11月から遡って3ヶ月の移動平均で4.3%と、1975年以来の最低水準での横這い推移が続いている。過去2ヶ月減少した雇用者数（3ヶ月前対比）が11月はリバウンド。単月では、新たに計算に加わった11月値（4.28%）が同一サンプルの8月値（4.23%）を上回った。こうした傾向は前月も同様。来月発表される12月の単月値が4.08～4.37%の範囲にとどまると（同一サンプルの9月値は4.17%）、来月の3ヶ月移動平均値は4.3%で不変となる。
- 速報性のある12月の失業給付ベースの失業率は2.4%と、過去8ヶ月の2.3%から僅かに上昇。失業給付申請件数が4ヶ月連続で前月から増加し、雇用の増加ペースがやや鈍っていることが示唆される。ただ、どちらの失業率計数も歴史的な低水準にあり、求人も引き続き増加するなど、労働需給の逼迫傾向が目立って和らいでいる訳ではない。
- 全産業の週当たり賃金（賞与を含む）は11月から遡って3ヶ月の移動平均で前年比+2.5%と前月（同+2.5%）から不変。内訳は賞与（同+8.6%→同+7.4%）の上昇率が鈍化した一方で、賞与を除く賃金（同+2.3%→同+2.4%）がやや加速した。賃金を上回るペースで物価が上昇しており、実質賃金は引き続きマイナス圏にある。それでも、労働需給の逼迫が続くなかで賃金が緩やかに加速、物価も11月でピークアウトしたとみられ、実質賃金の目減りには次第に歯止めが掛かってこよう。

■英国：失業率と失業給付申請件数



出所：英国統計局

■英国：週当たり賃金・賞与（全産業、前年比）



注：実線は3ヶ月移動平均値

出所：英国統計局

■英国の失業給付・平均賃金

	2017											
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
失業率（失業給付、%）	2.2	2.2	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.4
失業給付件数（前月差、千人）	-3.1	22.6	11.2	5.1	5.7	-3.7	-0.2	2.6	6.7	12.2	8.6	
失業率（労働力調査、%）	4.7	4.6	4.6	4.5	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	—
（単月の失業率、%）	4.68	4.45	4.60	4.34	4.32	4.35	4.23	4.17	4.40	4.28	—	—
就業者数（前月差、千人）	43	121	108	175	126	182	95	-14	-56	102	—	—
週当たり賃金（産業計、前年比、%）	2.2	2.3	2.1	1.9	2.1	2.2	2.3	2.3	2.5	2.5	—	—
賃金	2.0	1.8	1.8	2.0	2.1	2.2	2.2	2.2	2.3	2.4	—	—
ボーナス	2.3	5.3	4.6	-0.9	3.3	1.7	4.7	5.0	8.6	7.4	—	—

注：労働力調査基準の失業率、就業者数、週当たり賃金は当月で終わる3ヶ月移動平均 出所：英国統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。